日本気象学会

# 九州支部だより

No. 139 2022年7月

#### 今回の記事

- ◆第42期九州支部新理事の紹介
- ◆九州支部2022年度第1回理事会報告
- ◆支部会員からの便り「自治体で予報士として経験し、感じたこと」
- ◆支部事務局からのお知らせ



#### 発行者

日本気象学会九州支部

〒810-0052

福岡市中央区大濠1-2-36 福岡管区気象台防災調査課内

Tel: 092-725-3614 Fax: 092-725-3163 Mail: info@msj-kyushu.jp HP: http://msj-kyushu.jp/

## 第42期九州支部 新理事の紹介

#### 九州支部事務局

今年度は支部理事(任期2年。期間は2022年6月1日から2024年5月31日まで)の改選期にあたり、4月15日に第42期理事の選挙告示(支部ホームページへの掲載および支部会員宛メールにより選挙実施の通知と立候補受付のお知らせ)を行い、4月28日の届け出締切までに9名の会員から立候補の届出がありました。

支部理事の定員は支部規約により「概ね8名」となっており、候補者数が理事の定数の範囲のため、信任投票(有効投票総数の過半数の信任を得た場合当選)となりました。

これを受けて、5月9日に選挙公示を行い事務局から支部会員宛、公示文および投票用紙等を郵送しました。5月25日到着分まで郵送による投票を受け付け、5月6日時点の支部会員177名のうち114名(投票率64.4%)から投票がありました。

開票結果は支部ホームページに掲載しているとおり、立候補された9名の方が全員当選となりました。今回の選挙で当選された第42期の九州支部理事は次のとおりです。

(立候補の届け出順、敬称略)

竹村 俊彦 九州大学応用力学研究所•教授

中本 能久 福岡管区気象台・台長

西 憲敬 福岡大学理学部地球圏科学科・教授望月 崇 九州大学大学院理学研究院・准教授

羽廣 正樹 熊本市役所危機管理防災総室、日本気象予報士会西部支部

鈴木 賢士 山口大学大学院創成科学研究科農学系学域・教授

瀧下 洋一 鹿児島地方気象台・台長

濱田 修 福岡管区気象台・気象防災部長

富田 智彦 熊本大学大学院先端科学研究部 • 准教授

## 九州支部 2022年度第1回理事会報告

九州支部事務局

新型コロナウイルス感染防止対策のため、理事会はZoomによるオンラインで開催しました。 以下のとおり報告します。

【日 時】2022年5月31日(火) 18時00分~19時30分 オンラインで開催

【出席者】(理事)中本支部長、竹村常任理事、望月常任理事、西常任理事、濱田常任理事、 鈴木理事、冨田理事、羽廣理事、瀧下理事

(幹事) 木村事務局長、別府幹事、蛇嶋幹事

#### 【配布資料】

資料1 第42期日本気象学会九州支部理事選挙の結果について

資料2 日本気象学会九州支部規約および細則

資料3 年別支部会員数の推移、県別支部会員数の推移

資料4 2021年度九州支部 支部交付金 • 活動助成費 収支決算書

資料5 2021年度九州支部会計監査報告

資料6 気象教室開催状況

資料7 ジュニアセッションin九州 実施状況

資料8 気象学会九州支部 サイエンスカフェの開催状況

資料9 九州支部奨励賞の申請・推薦のためのガイドライン

資料10 九州支部奨励賞受賞者

資料11 2022年度九州支部 支部交付金 • 活動助成費 収支予算書

#### 【議事概要】

事務局長より、理事全員の出席で理事会が成立していることが報告され、議事次第に沿って、事務局長の司会により議事が進められた。会議の主な内容は以下のとおり。

#### 1 第42期理事選挙結果報告

事務局長から、選挙結果について、今回の選挙は9人が立候補し信任投票となったこと、開票の結果9人全員(届出順に竹村俊彦氏(九州大学)、中本能久氏(福岡管区気象台)、西憲敬氏(福岡大学)、望月崇氏(九州大学)、羽廣正樹氏(熊本市役所・日本気象予報士会西部支部)、鈴木賢士氏(山口大学)、瀧下洋一氏(鹿児島地方気象台)、濱田修氏(福岡管区気象台)、冨田智彦氏(熊本大学)が信任されたことが報告された。

#### 2 支部長、常任理事選出

理事の互選により、中本能久氏が支部長に、竹村俊彦氏、望月崇氏、西憲敬氏、濱田修 氏が常任理事に選出された。その他、役員は次のとおり。

役職	名 前	所 属
支部長	中本 能久	福岡管区気象台
常任理事	竹村 俊彦	九州大学応用力学研究所
常任理事	望月崇	九州大学大学院理学研究院
常任理事	西 憲敬	福岡大学理学部地球圏科学科
常任理事	濱田 修	福岡管区気象台気象防災部
理事	鈴木 賢士	山口大学大学院創成科学研究科農学系学域
理事	富田 智彦	熊本大学大学院先端科学研究部
理事	羽廣 正樹	熊本市役所、日本気象予報士会西部支部
理事	瀧下 洋一	鹿児島地方気象台
事務局長	木村 誠治	福岡管区気象台観測課
幹事	別府 秀樹	福岡管区気象台防災調査課
幹事	蛇嶋 成一	福岡管区気象台防災調査課
会計監査員	三好 勉信	九州大学大学院理学研究院

#### 3 2021年度事業報告

- 3-1 理事会
- 3-2 会員向け研究会など
  - (ア)第43回支部発表会(オンライン開催)
- 3-3 一般向け行事
  - (ア) 気象教室
  - (イ)ジュニアセッションin九州
  - (ウ) 気象サイエンスカフェ
  - (エ)藤田哲也博士記念シンポジウム
- 3-4 支部だより
- 3-5 支部奨励賞
- 3-6 ホームページ
- 3-7 会員数
- 3-8 決算報告、会計監查報告

事務局から、決算を含めて2021年度の事業について報告された。事業報告および決算報告については特段の意見はなかった。2021年度に開催したおもなイベントは、支部だよりにも掲載しているのでそちらを参照いただきたい。

#### 4 2022年度事業計画案

- 4-1 理事会
- 4-2 会員向け研究会など
  - (ア)第43回支部発表会
    - 開催時期は、2023年3月5日(日)とする案で承認された。
    - ・開催方法は、新型コロナウイルス感染症の状況を確認しつつ、会場開催とオンラ

#### 日本気象学会 九州支部だより No.139 2022年7月

イン開催を併用したハイブリッド開催で検討することを確認した。

#### 4-3 一般向け行事

- (ア)第23回気象教室
- (イ) ジュニアセッションin九州
- (ウ) 気象サイエンスカフェin九州

現時点ではテーマや日程など具体化していないが、今後担当理事を中心に検討を進めることとなった。理事から以下の意見が出された。

- ・支部発表会は、ハイブリッド開催を検討してほしい。サイエンスカフェは、対面でのやりとりが魅力の一つでもあるので、ハイブリッド開催も考えてほしい。気象教室は、講演形式なので、オンラインのみでもいいのではないか。
- ・イベントは、オンライン開催を基本に検討してよいが、会場も併用したハイブリッド開催も検討してほしい。その場合、会場の規模などの検討が必要となることから事務局には早め早めの準備をお願いする。

#### 4-4 支部だより

#### 4-5 支部奨励賞

事務局から、2020年度、2021年度は推薦がなかったことが報告され、これを受けて理事から以下の意見が出された。

- ・支部奨励賞についてここ2年は該当者がなかったが、今年度は防災分野で自治体、 気象キャスター等、視野を広げて候補者の推薦を促していく必要がある。
- ・支部奨励賞は気象学会員向けを対象とする賞である。学会員を増やし気象学に携わる人を増やすことを考えるべきである。
- 支部奨励賞のメリットは何かを考えていく必要がある。

#### 4-6 日本気象学会奨励賞受賞候補者推薦

#### 4-7 ホームページ

#### 4-8 会員数の拡大

会員数の増加へ向けて、理事から以下の意見が出された。

・気象災害が増加し、気象への社会的関心は高まっている。会員を増やすためには、 気象ビジネス関係者、気象キャスター、気象予報士、地方自治体の災害担当者、気候 変動の対策をしている人などにも入会を働きかけるべきである。また、会員がメリッ トを感じるような活動やサービスを提供していく必要がある。

#### 4-9 2022年度予算案

事務局からは、2021年度は新型コロナウイルス感染防止のため、イベントは全てオンライン開催としたことから経費が浮き149万円の繰越金となった。2022年度もイベントの基本はオンライン開催とし、繰越金で事業活動を計画したことが説明された。

また、これまで九州大学のご厚意により借用していた通信機器・Zoomアカウントを支部独自で購入することとし、その経費は予備費から支出することが説明された。

さらに、今後、イベントをハイブリッド開催とした場合に生じる、会場費・交通費等については、予備費から支出する予定であるとの報告があった。

これらに対し反対意見はなく予算案は了承された。理事からの意見で、予算書の事業支出に項目がないので、経費が必要になれば予備費から支出するということを議事録に残すこととなった。

#### 5 担当理事の分担(事務局案の協議)

今年度の担当が以下の表のとおり確認された。

項目	担 当 理 事
支部発表会	竹村理事(九大)、望月理事(九大)、濱田理事(福気象)
気象教室	竹村理事(九大)、望月理事(九大)、濱田理事(福気象)
気象サイエンスカ	望月理事(九大)、濱田理事(福気象)、羽廣理事(予報士会)
フェin九州	
ジュニアセッション	望月理事(九大)、濱田理事(福気象)、西理事(福岡大)
in九州	
支部奨励賞	竹村理事(九大)、鈴木理事(山口大)、冨田理事(熊本大)、
	西理事(福岡大)、羽廣理事(予報士会)、瀧下理事(鹿気象)
支部だより	羽廣理事(予報士会): 「支部会員からの便り」 6月分
	冨田理事(熊本大) :「支部会員からの便り」 9月分
	西理事(福岡大) : 「支部会員からの便り」12月分
	瀧下理事(鹿気象) :「支部会員からの便り」 3月分
日本気象学会奨励賞	濱田理事(福気象)

#### 6 本部理事会からの報告など

竹村理事(今年度から本部理事に就任)から報告があった

・本部財政が厳しいと聞いているが、財政支援を厚くすべき分野として、アウトリーチ活動(研究者が一般の方々にわかりやすい言葉で研究内容や研究成果を伝える活動)の強化が言われている。

#### 7 その他

理事から以下の意見が出された。

- ・当面、気象教室の開催時期(9月~11月)が迫っている。講師は名前を挙げて打診しなければならない時期に来ている。候補者があればあげてほしい。
- ・支部でZoomのアカウントを購入した場合は、運営も事務局で実施することになるのか、と事務局に対し質問があった。

これに対し事務局からは、支部でZoomのアカウントを購入した場合は、運営も事務局で実施することになると回答があった。

以上、提案された議案はすべて承認された。

## 支部会員からの便り

### 🔰 自治体で予報士として経験し、感じたこと

熊本市役所危機管理防災総室 · 日本気象予報士会西部支部

おり まさき 羽廣 正樹

気象予報士の羽廣(はびろ)と申します。

熊本の防災セクションで勤務して4年目になります。出水期を中心とした水防対応、避難情報の発令、要配慮者施設の避難計画作成支援やハザードマップの周知啓発業務などに加え、その他、様々な危機事象に関する業務を行っております。

また、社会貢献活動として、お天気教室や気象講演、ワークショップ等の防災啓発活動を行っています。

今回は、私が自治体で経験したことや感じたことを、一個人の感想ではありますが僭越ながら執筆させていただきます。



#### ■ 求められるものは、出水期対応での防災気象情報の"翻訳"

防災セクションで気象予報士に求められるものは、出水期対応での雨予測についてです。

自治体では、注意報や警報から大雨に備える態勢をとるところも多いと思いますが、注意報や 警報級の雨がいつ頃降るのか?どれくらいの規模感で降るのか?

ここがよく求められます。気象予報士なので、その自治体に寄り添った細かい予測を行うことで、態勢の支援に繋がります。気象台による説明会や防災気象情報解説について、特に何気なく使われている専門用語(激しい雨、注意と警戒の違い、未明など…)をかみ砕いて丁寧に解説することが大切です。

さらに状況が切迫した時は、より細かな、適切な気象情報収集、解説が必要です。

特別警報級の台風など切迫している状況では、組織全体で態勢をとる必要もでてきます。そういった時に、適切な情報収集のもと、行動計画をたて、適切に対応することがとても重要となります。ここでも、気象予報士として力を発揮しなければなりません。

このような対応を数年行ってきて感じたことは、気象予報士で学んだこと以外にも、ハザードマップなどから河川や土砂などの地域の災害リスクを知っておくこと、過去の災害がどういった 気象状況で起こったのかなど、地域性を知っておくことが非常に重要になってきます。以上から、毎日、気象解説資料や天気図を見ておくといった基本がとても重要です。

#### ■ 気象予報士がいることで、先を見据えた行動ができる

気象予報士は全国で1万人強しかおらず、各組織にはなかなかいないと思います。

気象予報士がいることで、防災分野に関わらず、あらゆる分野で、先の予定が立てやすくなると思います。

私の仕事の場合では、出水期時期は、ある程度予測を立てることができ、スケジュールが立てやすくなります。実際、6月~7月は梅雨シーズンのためなかなか予定を立てにくいところもありますが、気象予報士としてスケジュールについて助言することで、ある程度余裕をもって行動計画をたてることができるのが利点であると思います。

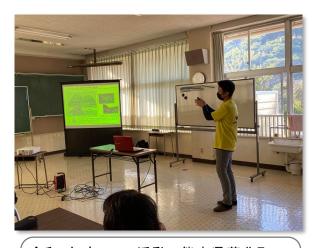
### ■終わりに

防災気象情報を適切に読み解く気象予報士は気象防災アドバイザーなどもあるように今後さらに求められていくと思います。上記では出水期に偏った書き方となりましたが、その出水期を経験することにより、平常時ではマイタイムラインなどの防災行動計画の作成支援など、そういった普及啓発を経験からお伝えすることができます。気象予報士として、そういった予測を適切に読み解いて、リスクを伝えることが私の責務だと感じています。今後も、様々な場面で、経験を生かして活動してまいりたいと思います。



令和2年度末、NPO活動で気象防災の講演をしたときの写真です。

令和2年7月豪雨を振り返りつつ、防災気象情報や河川情報など読み解くことで、リスクを伝えることが可能になるようなお話をしました。



令和3年度、NPO活動で熊本県芦北町の 田浦小学校で大雨ワークショップをしたと きの写真です。保護者を含む子どもたちと 一緒に学ぶことができました。

熊本県内を中心にNPO法人防災WESTメンバーとしても活動しております。

## 支部事務局からのお知らせ

## 新しい事務局メンバーの紹介

九州支部の事務局は福岡管区気象 台で担当しています。メンバーは事 務局長を含めて3人ですが、新しい 年度になって3人全員が交代しまし た。

今年度は木村事務局長、別府幹事、 蛇嶋幹事が担当しますのでよろしく お願いします。



5月31日の理事会(オンライン)で、司会進行を務める事 務局の木村事務局長(中央)。右は別府幹事。写真撮影 は蛇嶋幹事。

## メールアドレスの登録および変更のお願い

支部事務局から会員の皆さんへの連絡やお知らせには、主に電子メールを利用しています。

現在、支部会員の約9割の方にメールアドレスを登録いただいています。しかし、メールを送付した際に、送信エラーや不達などのメッセージが帰ってくることがあります。以前はメールが届いていたのに、最近メールが届かなくなったという方は、職場の異動、学校の卒業・就職や進学などでメールアドレスが変更になっている可能性がありますので、確認をお願いします。

また、以前からお願いしていますが、インターネットが利用できる会員の方で、アドレスを登録していただいていない方も、新規に登録をお願いします。アドレスの変更や新規の登録については、支部事務局までご連絡ください。事務局からのメールは、一斉送信する際にはBCCで送信するため、他の会員にメールアドレスが知られることはありませんのでご安心ください。

## 学会への入会のお誘い(会員増加への協力お願い)

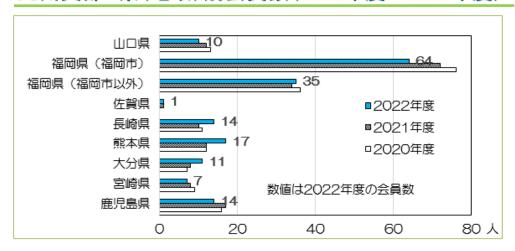
九州支部の学会の会員数は、次ページの九州支部年別会員数の推移のグラフのとおり、 長期的には減少傾向にあります。これは九州支部だけではなく、全国的な傾向です。 学会の活動は会員の会費で運営されており、会員数の減少は将来的には学会の十分な活 動に支障を来たすおそれもあります。職場や学校などで気象学に興味をお持ちの方が周囲 におられましたら是非入会を勧めていただくようお願いします。

入会手続きについては、支部事務局へ連絡いただくか、学会のホームページを紹介ください。

### 九州支部 年別会員数の推移(2012年度~2022年度)



### 九州支部 県(地域)別会員数(2020年度~2022年度)



## 投稿をお待ちしています!

支部だよりには会員の皆様からの投稿も歓迎します。研究集会や講演会などのお知らせあるいは報告、主に大気中で起こった珍しい現象をとらえた写真、気象あるいは気象学にまつわる話題など、気象学会の活動に相応しいものであれば何でも結構です。投稿をお待ちしています。